

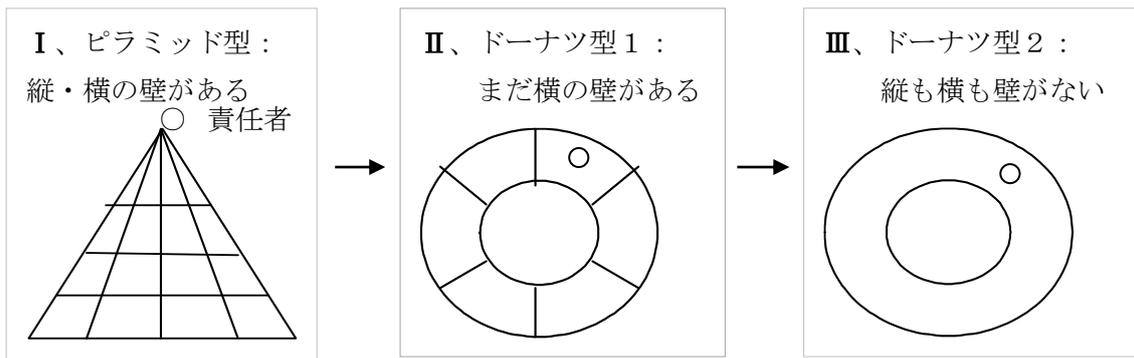
再び老健の「多職種協働」について

先日、大分市で開催された全老健の全国大会に参加してきました。今、全国の老健施設は合計4086施設あるそうです。それぞれの施設が理想の老健の介護を目指して、工夫している様子が感じられました。それぞれの施設がハード面、ソフト面みな違いますので、**理想の介護の形も皆違ってよいのです。**しかし、老健全体の目指す共通点もあります。それが「多職種協働」と「生活リハビリ」です。

法令上の老健の役割は「在宅復帰と在宅支援」です。それは法律にも記載されました。

その法令上の役割を別の観点から見ると「多職種協働と生活リハビリ」とも言えます。

「多職種協働」のレベルは3段階ありますが、私たちが目指す理想の多職種協働は「ドーナツ型2」です。平坦型役割重複型役割分担です。職種間の上下はありません。縦の壁も横の壁もありません。責任も共同責任です。リーダーの職種も問いません。互いに得手不得手を持ったメンバー同士が互いを尊重して互いに業務に手を出し合うことです。自分の意見は3割で抑える7-3ルールを自分に課して、7割は相手の意見を入れる努力をすることです。但しマネジメントはリーダーの役割です。



次に「生活リハビリ」です。「老健の介護」＝「生活リハビリ」です。介護を受ける側も提供する側も1挙手1投足がそのまま生活リハビリに繋がります。心構えによって、受け身介護になってしまうか、前向きな生活リハビリになるかの違いが出ます。残っている機能を上手く使って個々に合った「**それなりの自立支援**」を行う心構えで行う介護が生活リハビリです。全スタッフが「多職種協働」の「生活リハビリ」を実践致しましょう。それが私たちの目指す老健の介護です。

老人保健施設一羊館の理念

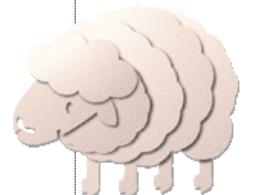
利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。